

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

「令和5年度 こども霞が関見学デー」に参加して

令和5年度「こども霞が関見学デー」が令和5年8月2日(水)、3日(木)の2日間に行われました。スタッフとして参加された会員の方の感想を掲載いたします。

関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所 神戸 考裕

令和5年8月2日(水)、3日(木)の2日間に令和5年度「こども霞が関見学デー」が開催されました。このイベントは霞が関に所在する厚生労働省をはじめ、各府省庁等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、夏休み期間中に子どもたちに広く社会を知ってもらうこと、政府の施策に対する理解を深めてもらうこと、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的とした取組です。

新型コロナウイルス感染症の影響により4年ぶりに対面開催されました。中央合同庁舎第5号館の出展ブースには(一社)日本臨床検査振興協議会をはじめ、(一社)日本臨床検査薬協会、(一社)日本衛生検査所協会、各企業から運営スタッフが参加しました。(一社)日本臨床衛生検査技師会のスタッフとして当会からは北川青年部委員長と私の2名が参加しました。

会場の中央合同庁舎第5号館18階には参加した(一社)日本臨床検査振興協議会の出展ブースの他に、日本歯科技工士会、医政局総務課、医薬・生活安全局監視指導・麻薬対策課の各ブースがありました。参加対象者は未就学児～高校生までと幅広い年齢の子ども達を対象に、事前予約型プログラム、自由参加型プログラム、オンラインプログラムの3つに分かれていました。今年の出展ブースのテーマは「うんちやおしっこ・血液を検査するとなにがわかるかな?～白衣を着て臨床検査を体験しよう!!～」であり、自由参加型のプログラムでした。



スタッフは「りんしょう犬さんTシャツ」に「りんしょう犬さんサンバイザー」を着用して子ども達を迎えました。開場するとブースに入りきれないほどの子ども達の姿があり、驚きとともに最初は担当(おしっこ)係の対応で精一杯のスタートでした。パネルの説明、試験紙を使った尿糖検査のデモ、体験を1回5分で4～6人のグループを対応する予定でしたが、子ども達の多さにいつの間にか「尿糖検査を体験しよう」の体験メ

インで最初と最後に説明というスタイルになりました。参加した子ども達からは「本物のおしっこでなくて安心した」、「なんで色が変わるの?」、「検査陽性は糖尿病なの?」の声があり、臨床検査に興味を持っていただけました。

2日間のイベントで我々のブースには推定700名を超えるの子ども達の参加があったと伺いました。これは、過去の開催概要の報告人数で最大であった2015年の641名を大きく上回る結果でした。このイベントを通じて臨床検査の啓発活動を幼児期や学童期に体験することで、今まで気が付かなかったより広い世界に気づき、社会性も様々な人々との交流により培うことができると感じました。子ども達の臨床検査の体験は大切であり、私たちにとっても貴重な経験となりました。

埼玉医科大学病院 北川 裕太郎

「こども霞が関見学デー」は、各府省庁が連携し、子どもたちに業務説明や省内見学などを通し、親子の触れ合いを深め、子どもたちが夏休みに広く社会を知る体験活動の機会とするとともに、各府省庁等の施策に対する理解を深めてもらうことを目的としたイベントとなっています。厚生労働省においても8月2日、3日の2日間に渡って、(一社)日本臨床検査振興協議会が子どもたち及びその保護者に対して、臨床検査に対する理解を深めてもらうことを目的として、臨床検査に関するプログラムを実施することとなりました。

埼玉県臨床検査技師会へも実務委員の派遣依頼があり、私は青年部委員会委員長として今後の活動や企画のヒントになればと思い参加させていただきました。当会は自由参加型プログラムとして「うんちやおしっこ・血液を検査すると何がわかるかな?～白衣を着て臨床検査技師を体験しよう!!～」をテーマに実施しており、私はうんちの検査コーナー担当でした。内容としては、パネルでうんちの量やできるまでのお話、大腸がんの危険性と検査の説明をした後、実際に便潜血検査を体験してもらうというものでした。



模擬便に陽性コントロールを塗り、子どもたちに検体の採取の仕方や検査方法を説明し、サポートしながら実施してもらいました。私は普段、患者さん向けに検査の説明や技師会活動での講演経験はありますが、今回のような子ども向けの企画での説明やレクチャーは初めてであり、伝え方や言葉の選び方には始め悩みました。しかしながら、元気よく「はい」と手を挙げる姿や、「どうしてうんちに血が混ざるの?」「滴下するのが少なかったり多かったらどうなるの」といった質問があり、子どもが持つ好奇心や純真な心には驚かされました。検査を行い判定を行う姿は真剣な眼差しで、上手に検査ができたときは嬉しそうな顔で報告してくれました。

子どもたちの面白い、楽しいだけでなく、なぜそうなるのかを学ぶ姿勢は社会を知り今後の未来を明るくする姿だと思いました。さらには、臨床検査技師の仕事は、未だどういったことを行っているのか知られていないことも多く、今回の企画を通して子どもたちや保護者の皆さんに知っていただくことは、非常に意義のあるイベントだと感じました。



今回のイベントブースには2日間で700名を超える子どもの参加があり、多くの方に臨床検査を体験していただきました。私も子を持つ親として、子どもたちのために何ができるのか考えさせられる機会となりました。青年部委員会としても今後、今回の経験を生かして、企画を考えていきたいと思います。私自身も子どもたちから興味を持って楽しく学ぶことの大切さを改めて教えてもらい、今後の仕事や技師会活動に貢献していきたいと思います。

埼臨技 新入会員向け研修会開催される

令和5年7月28日(金)新入会員向け研修会がWeb開催された。今回は事業部・臨床検査技師養成校連絡協議会の共催となり、多くの学生参加があった。

講演1は神山清志会長より「臨床検査技師会とは?～日臨技・埼臨技について～」と題し、技師会の歴史から事業内容、現在の医療業界における臨床検査技師の立ち位置やタスク・シフト/シェアについてなど、臨床検査技師また技師会会員としてモチベーションアップにつながる内容であった。

講演2は自治医科大学附属さいたま医療センターの関森なつみ氏より「先輩技師に聞く～患者様とのコミュニケーション 生理機能検査、採血業務を通じて～」と題し、具体的な患者対応などについて、実際の経験談や実例を交えた解説とアドバイスがあり、コミュニケーションの大切さが再確認できた内容であった。

参加した学生にとっても、埼臨技活動内容を知る良い機会となった。

以下に受講者を代表して2名の感想を掲載する。

深谷赤十字病院
小林 海紗

令和5年度埼臨技主催の新人会員向け研修会に参加しました。

神山会長の講演で、臨床検査技師を支える日臨技や埼臨技の活動について理解を深めることができました。これから生涯学習の一環として各種研修や学会などに積極的に参加し、日々変化していく検査業務を含む医療へ関心を持ち、常に知識を高めていこうと改めて決意しました。また、他施設の方々と交流をも持ち、様々な情報を共有することで検査全般の向上に活かしていきたいと強く思いました。

関森氏の講演では患者とのコミュニケーションについて、注意すべきことや対応について学びました。学生のとときには学ぶことのできなかった患者への声かけは、実際に採血を行っている中で難しいと実感しており、患者に寄り添った対応や適切な言葉選びについて実例を挙げて具体的に学ぶことができたので非常に勉強になりました。患者対応をする上で、今回学んだことを実践していきます。

私自身、このような研修や学会へ参加することに難しさを感じていましたが、この研修が積極的に参加するきっかけとなったと思います。新しい知識や情報を学び、認定資格にも挑戦し、常に向上心を忘れることなく業務を行っていきたいです。



戸田中央総合病院
野上 花歩

令和5年度埼臨技主催の新人会員向け研修会に参加した。

講演1では、技師会の取り組みや臨床検査技師の役割について学んだ。臨床検査技師の知名度は低いものの、医療の現場において、適切な診断・治療などを行う上で、欠かすことのできない重要な役割を担っていると感じた。

講演2では、患者様とのコミュニケーションの重要性を学んだ。私が患者様と関わる機会は主に採血、生理検査であり、採血業務では、VVR予防の観点からもコミュニケーションをとるよう心掛けてはいるが、新人である私は自身の採血手技に気を取られ、患者様の不安を軽減することができていないと気付いた。生理検査業務では、特に呼吸機能検査において、患者様との意思疎通が検査結果に直結するため、短い時間で信頼関係を築き上げることが大切であると感じた。

患者様の年齢や性格、病状など一人ひとり様々だが、それぞれに合った言葉遣いや言葉選びをし、丁寧な対応を心掛けることで、安心して検査を受けていただけるよう、臨床検査技師として成長していきたい。



第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 令和5年12月3日(日)
会 場 : 大宮ソニックシティ
テ ー マ : Let's connect!
サブテーマ : 臨床検査技師になってよかった
～ 人との出会い・検査との出会い～



第51回 埼玉県医学検査学会
実行委員長 小関 紀之

日常業務のお忙しい中にもかかわらず、一般演題62題、CM演題5題、学生演題8題と多くの会員、賛助会員、学生から演題登録をいただき、誠にありがとうございました。

また、賛助会員の皆様には、ランチョンセミナー、広告等多くのご協力を賜り重ねてお礼申し上げます。

学会まで3カ月となり、実行委員一丸となって、プログラムの作成、埼臨技会誌特集号の作成、事前登録の準備に取り組んでおります。市民公開公演には、第I部として、“世界一低いアンダースロー” 渡辺 俊介氏（日本製鉄かずさマジック 監督）によるトークショー、第II部では山村国際高等学校ダンス部によるステージパフォーマンスを企画しております。多くの会員及び一般市民の方々のご参加をお待ちしております。是非会場へお越しください。会員の皆様へは、ポスター、チラシをお送りさせていただいております。一般市民の方々へのご案内よろしくお願いたします。その他の学会に関する最新情報は学会ホームページ及び埼臨技だより(web)よりご確認ください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

「発表方法・スライド作成について」

第51回 埼玉県医学検査学会
学術部長 急式 政志

7月31日をもちまして、演題・抄録登録は終了となりました。多くの演題登録をいただきあらためて御礼申し上げます。演者の皆様におかれましては、次のスライド作成の作業に取り掛かる頃かと思えます。そこで、今月は演題発表の発表方法とスライド作成（利益相反の開示）についてお知らせいたします。

《発表方法について》

発表はパソコンを使用したスライド投影による口演形式です。

一般演題の発表時間は、1演題につき発表6分、質疑応答3分の計9分です。

コマーシャル演題は、発表・質疑応答合わせて15分以内です。

《発表スライドについて》

発表はパソコンを使用した口演形式で行いますので、以下の注意事項にしたがって発表用スライドを作成し、送付してください。なお、送付方法については、次号の埼臨技だよりにてお知らせいたします。

1. 口演スライドの作成方法 ※スライドサイズがこれまでと異なります。ご注意ください。

- 1) OSはMicrosoft Windows10または11、アプリケーションソフトはMicrosoft Power Point2019または2021を使用します。ページ設定は「ワイド画面16：9」に設定し作成してください。「ワイド画面16：9」の設定は、
「デザイン」→「スライドのサイズ」→「ワイド画面16：9」から行えます。
Mac OSは使用できませんのでご注意ください。
- 2) 動画使用の注意
 - ①標準のWindows Media Playerで動作する形式（MPEG 1、MPEG 2、MPEG 4 /AVC（H.264）、（DivX、WMV））をご使用ください。なお、符号化や特殊な圧縮（コーデック）をしたものは使用しないでください。また、音声の使用はできません。
解像度は、720×180ピクセル程度、デジタルハイビジョンやフルハイビジョンは避けてください。
 - ②動画再生が不安な場合は、複数の形式を使用してください。
- 3) 図表作成の注意
 - ①図表を作成する場合は、遠くからでもはっきりみえる簡潔なものにしてください。
 - ②注意してほしい箇所は目立つように工夫してください。
 - ③グラフのX軸・Y軸の項目や単位を忘れないで記入してください。
- 4) スライドに使用する文字は、特殊なフォントは使用せずMicrosoft Windows10または11に標準搭載されているフォントのご使用をお奨めします。

《利益相反（COI）の開示について》

利益相反とは、ある行為によって一方の利益になると同時に、他方への不利益になる状態を指します。

1. 埼玉県医学検査学会の発表は、利益相反の開示が義務づけられております。
開示基準その他の詳細については、JAMTのホームページの会員専用サイトにログインし、『利益相反』を開いてご確認ください。
2. 利益相反の自己申告は、発表スライドの1枚目の最下段に下記の申告内容を記載してください。
 - 1) 利益相反無しの場合・・・利益相反の有無：無
※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません
 - 2) 利益相反有りの場合・・・利益相反の有無：有
※この演題の発表に関し、開示すべきCOI関係にある企業名
○○○○株式会社、(株)□□□□
- 3) 記入例

○○○の検討について
△△病院 臨床検査部
埼玉 県一

利益相反の有無：無

※この演題の発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません

《はじめて学会発表する方へ》

発表用スライドができあがったら、読み上げ用の原稿を作成し、声に出して読み返してみましょ
う。間違えずに読めるようになったら、実際にスライドを使用して職場の先輩や同僚の前で発表し、
質問してもらいましょう。パソコン操作や人前で話すことで、発表時間にずれが生じることもあれ
ば、予期せぬ質問に慌ててしまうこともありますので、何回か予演会を行なうことをお勧めします。
また、事前に自分の発表に対して質問とその回答をいくつか書き出しておく、落ち着いて質疑応
答に臨むことができるのでお勧めです。

今回の学会テーマは「Let's connect! 臨床検査技師になってよかった ～人との出会い・検査との
出会い～」です。学会発表の準備や発表当日の中で様々な人とconnectすると思いますが、それは学
会発表を通さなければ存在し得なかった貴重な出会いです。そんな貴重な学会発表が明日の検査業
務の礎になり、臨床検査技師になってよかったと実感できる場を提供できますよう、実行委員一丸
となって準備を整えております。そして学会当日、皆様とconnectできることを実行委員一同楽しみ
にお待ちしております。

「運営部を担当して」

第51回 埼玉県医学検査学会
運営部 福島 亜紀子

第51回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当します、女子栄養大学の福島亜紀子と申します。学
会テーマは「Let's connect!」です。会員の皆様とのつながり・出会いと共に、これから臨床検査
技師になろうとしている学生もつなぐことができるよう、養成校教員として尽力して参ります。ま
た、学生達が学会にて神山会長講演、青年部企画学生ランチョンセミナーを拝聴し、「臨床検査技師
を目指してよかった」と思うことを期待しています。

運営部の仕事は学会が滞りなく開催できるよう準備、運営することです。学会当日は実行委員会
委員だけでは無く、多くの実務委員の方に運営をお手伝いいただくこととなりますので、そのマ
ニュアルを作成したり、物品、備品を揃えたり、案内表示を作成したりしています。先日、大宮ソ
ニックシティも学会運営の視点で見学に行ってきました。演題締め切りを迎え演題数も決定し、具
体的な数字を入れての準備が可能になってきました。

学会当日まで、あと3ヶ月、万全の準備で皆様をお迎えいたしますので、ご参加よろしくお願
いいたします。事前情報は学会ホームページ、LINEをご覧ください。

前号訂正のお知らせ

埼臨技だより第531号「第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ」の記事に、以下の誤りがあ
りました。関係者の皆様にはご迷惑をお掛けしました。訂正してお詫び申し上げます。

P4.上から8行目 誤) 会計部長 柿沼 智史 → 正) 会計部 柿沼 智史

研究班研修会報告

テーマ 遺伝子検査の実践と染色体遺伝子検査アンケート調査の報告

主催 遺伝子染色体検査研究班

実施日時：2023年6月23日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：基礎教科ー20点

講 演 1：遺伝子染色体検査アンケート調査の報告

講 師 1：園山 政行（株式会社ビー・エム・エル総合研究所）

講 演 2：遺伝子検査の実践

～ PCR検査による感染症の基本的な考え方とピットフォールを中心に ～

講 師 2：白神 博

（サーモフィッシャーサイエンティフィックライフテクノロジーズジャパン株式会社）

参加人数：会員90名

出席した研究班班員：小内玲子 園山政行 石橋佳朋 折原悠太 飯野望 相良真理子 松岡優

研修内容の概要・感想など

今回は、遺伝子染色体検査研修会として、「遺伝子検査の実践と染色体遺伝子検査アンケート調査の報告」をテーマに開催した。

園山氏は、「遺伝子染色体検査アンケート調査の報告」と題し、2022年8月10日から10月15日の期間にてwebツールを用いて実施した埼玉県における遺伝子染色体検査アンケートについて集計結果の講演があった。提示されたデータにおいて、各施設の遺伝子検査・染色体検査の実施状況や関連する各認定資格の取得の有無、内部精度管理の実施状況などが挙げられた。特に、多くの施設で新型コロナウイルス検査の遺伝子検査を実施しており、その際に発生する課題や今後の遺伝子染色体検査研究班による研修会の要望が示された。今後の遺伝子染色体検査研究班の活動によるフィードバックをおこなっていききたい。

白神氏は「遺伝子検査の実践～PCRによる感染症検査の基本的な考え方とピットフォールを中心に」と題し、まず、予期せぬコンタミネーションの防止方法について詳細な解説があった。また、遺伝子検査の基礎知識であるPCR法やリアルタイムPCR法、核酸の増幅原理、電気泳動におけるトラブルシュート、解析時の確認事項など、適切な操作に必要な知識と手技の注意点について解説があった。

今回の講演にて、埼玉県内の遺伝子染色体検査の実施状況の把握及び今後の研修会開催への期待が見受けられた。遺伝子検査における操作の注意点や実際に発生しうるトラブルシュートの内容が確認できた。これらの情報を今後の日常業務に取り入れてもらいたい。

（文責：折原悠太）

テーマ **深部静脈血栓DVTスクリーニングを学ぶ！** ～ 明日からの実践に備えて ～

主催 生理検査研究班

実施日時：2023年6月24日 15時00分～16時30分

会 場：大宮ソニックシティ906号室 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：超音波による深部静脈血栓症の標準的評価

講 師 1：秋山 忍（東京医科大学病院）

講 演 2：DVTスクリーニングの実際（ライブデモ）

講 師 2：後藤 紀子（東京医科大学病院）

協 賛：キヤノンメディカルシステムズ株式会社

参加人数：会員53名 賛助会員1名

出席した研究班班員：家城正和 工藤淳子 小宮山英幸 瀧沢義教 南雲涼太 野村和弘
新井雅人

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、深部静脈血栓DVTスクリーニング検査についての内容で現地開催された。

講演1では、「超音波による深部静脈血栓症の標準的評価法」をテーマに、秋山氏が深部静脈血栓症の概要、検査を行うために知っておくべき解剖や機器の設定、報告書に記載する内容などを詳しく話していた。また病変の特徴や注意して観察するポイント、検査技術などを実際に撮影した画像を提示しながら説明していた。自分が検査を行う際にプローブの当て方や病変の観察方法など参考となる内容も多かった。

講演2では、「DVTスクリーニングの実際（ライブデモ）」をテーマに、秋山氏が講演内容に沿って説明しながら、後藤氏が超音波検査装置を操作して被験者の下肢血管を描出し、実際にどのように検査を進めるかを説明された。

普段検査を行っている技師は自分の描出方法と対比しながら技術の再確認ができたのではないかとと思われる。これから検査を始める技師にとっては、検査を行うための技術を学ぶとともに観察しなければならないポイントなども知ることができたと考える。今回の研修会で得た知識を今後の業務に役立てたい。

（文責：工藤淳子）

テーマ **血液型が判定できない！ こんな時、どのように対処しますか？**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2023年7月13日 19時00分～20時30分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講 演 1：関東甲信越ブロック血液センターに依頼された埼玉県内の血液型検査とその詳細

講 師 1：矢部 隆一（関東甲信越ブロック血液センター）

講 演 2：ABO、RhD血液型検査 予期せぬ反応の考え方

講 師 2：上岡 誠（株式会社カイノス）

講 演 3：ABO、RhD血液型検査 予期せぬ反応への対処

講 師 3：中島 康裕（株式会社カイノス）

参加人数：会員135名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 岸健太 小原佑太 比嘉絢子 岩崎篤史
廣田渉 川内沙織

研修内容の概要・感想など

安全な輸血療法を実施する上で、最も重要といえるのが血液型検査である。血液型検査の手技は細かい留意点はあるが、容易である。しかし、検査結果が予期せぬ反応を呈した場合、どのように考えたら良いか苦慮することも少なくない。本研修会では、埼玉県内で遭遇した症例、予期せぬ反応の考え方、検査の進め方と順を追って研修するものであった。

矢部氏の講演では関東甲信越ブロック血液センターへ依頼された埼玉県内の血液型検査について、よく遭遇する症例や稀な症例に関しどのように検査を実施したのかについて解説があった。血液型判定が困難な場合、血液センターへ相談したり、検査を依頼したりすることも多々あるが、自施設で実施できる検査や必要な情報収集についてなど日常業務で役立つ内容であった。

上岡氏の講演では試験管法によるABO、RhD血液型検査の基礎知識から細かい検査手技についての講義であった。予期せぬ反応の考え方については、再検査を行い再現性の確認、オモテ検査とウラ検査のどちらに予期せぬ反応が起きているのかそれぞれの可能性を挙げ、一つ一つ確認していく分かり易い説明であった。

中島氏の講演では講演2の考え方をを用いて、カラム凝集法で予期せぬ反応を呈した症例の進め方についての解説であった。よく遭遇するウラ検査の弱反応では反応時間の延長・至適温度での反応・血漿量の増加、ウラ検査の予期せぬ凝集では室温以下で反応する不規則抗体の存在や寒冷凝集・連鎖形成の確認方法、亜型検査ではABO血液型検査で使用する試薬を用いて吸着解離試験ができるなど、すぐにでも実践できる対処方法が紹介された。

ABO、RhD血液型検査の予期せぬ反応に対処するためには、確かな技術と知識が必要である。そのため、輸血検査に苦手意識を持つ技師も少なくはない。今回の研修会で印象的だったのが中島氏の予期せぬ反応への考え方についての例えで「推理力ゲームのような側面」という言葉である。日々研鑽している技術と本研修会で得た知識をもとに推理・考察し行動に移すことを心がけ、日々の業務の一助にしていきたい。

(文責：小原佑太)

**令和5年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第5回 理事会議事録**

日時：令和5年8月10日(木) 17時30分より

場所：大宮ソニックシティビル

501号会議室

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本

松寄 松尾 佐瀬 網野 塚原

神嶋 伊藤(恵) 伊藤(隆)

石井 神戸 小林 久保田

長谷川

(Zoomにて参加) 長岡 阿部

(監事) 遠藤

欠席：(理事) 長澤 三木

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は21名であった。理事の出席者は20名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

I. 行動報告

(令和5年7月13日～令和5年8月9日)

7月13日(木) 令和5年度第4回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、久保田、長谷川、神戸、石井、小林、遠藤、細谷

7月13日(木) 埼臨技創立70周年記念式典打ち合わせ：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

7月15日(土) 一都八県会長会議(第2回)：

神山、松岡

7月16日(日) タスクシフト講習(埼玉県016)：

猪浦、松寄、山口、神戸、伊藤(恵)、佐瀬、小林、三木

7月19日(水) 日本医療科学大学講義：神山

7月20日(木) 第51回埼玉県医学検査学会第10回実行委員会：三木

7月23日(日) 第2回ワークライフ推進委員会：

猪浦、石井、塚原、伊藤(恵)、神嶋

7月25日(火) 日臨技品質保証施設認証制度審査基準事前打ち合わせ(フォト系)：神山

7月26日(水) 日臨技品質保証施設認証制度審査基準事前打ち合わせ(検体系)：神山

7月28日(金) 埼臨技新入会員向け研修会：神山、塚原、伊藤(隆)

7月31日(月) 日臨技予算実績WG(第一回)：神山

8月1日(火) 第2回表彰審査選考委員会：神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部

8月1日(火) 事業部Web会議：猪浦、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)

8月2日(水) こども霞が関見学デー：神戸

8月5日(土) 日臨技執行理事会：神山

II. 報告事項

1 事務局

1) 7月13日(木) 埼臨技創立70周年記念式典打ち合わせを行った。(別紙資料1)

2) 7月19日(水) 日臨技より地域ニューリーダー育成研修会受講者推薦の依頼があった。濱本事務局長を推薦することとした。(別紙資料2)

3) 7月20日(木) 日臨技より都道府県技師会リーダー育成研修会開催の依頼があった。(別紙資料3)

4) 7月25日(火) 令和6年度叙勲推薦者二次資料を埼玉県に提出した。

5) 7月28日(金) 埼玉県へ埼玉シェイクアウト一斉防災訓練への参加申し込みをした。

- 6) 8月1日(火)第2回表彰審査選考委員会を開催した。(別紙資料4)
 - 7) 8月2日(水)埼玉県糖尿病協会に全国糖尿病週間行事後援について承諾回答した。
 - 8) 8月2日、3日(水・木)こども霞が関見学デーに埼臨技より2名派遣した。(別紙資料5)
 - 9) 8月3日(木)Zoom社に契約内容を一部変更し更新の手続きをした。
- ## 2 総務部
- 1) 7月16日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 016)を開催した。(別紙資料6)
 - 2) 8月15日(火)埼臨技だより531号発行予定。
 - 3) 8月19日(土)タスクシフト指定講習会(埼玉県 017)を開催予定。運営責任者は佐瀬理事。
- ## 3 事業部
- 1) 7月23日(日)第1回ワーク・ライフバランス推進委員会会議を開催した。(別紙資料7)
 - 2) 7月28日(土)令和5年度新入会員向け研修会を開催した。(別紙資料8)
 - 3) 8月1日(火)事業部会議を開催した。(別紙資料9)
- ## 4 学術部
- 1) 病理検査研究班より、Microsoftとの契約が遅れ、延滞金が発生したとの報告があった。
 - 2) 10・11月生涯教育研修プログラムを埼臨技HPに掲載した。今号から埼臨技ホームページでの掲載のみになる。
 - 3) 9月27日開催予定の輸血検査研究班研修会追加を受けて、8・9月生涯教育研修プログラム(埼臨技HP掲載)を差し替えた。
 - 4) 11月19日の血液検査研究班実技研修会はメーカー協賛があったため、三役承認後、研修会協賛依頼書の送付を事務局へ依頼した。
- ## 5 精度保証部 特になし
- ## 6 会計部
- 1) 令和5年度正会員費34名170,000円、入金金34名34,000円、合計204,000円の入金があった。
 - 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金50,000円、全国「検査と健康展」助成金500,000円、令和5年度定時総会議決権行使における回収手数料165,550円(受領率68.51%、2,365件×70円)、合計715,550円の入金があった。
 - 3) 石井印刷に会誌Vol.70-No.1印刷代961,400円、仕分費25,058円、合計986,458円を支払った。
 - 4) Microsoft365更新料43,657円を支払った。
 - 5) 7月15日(土)、事務員に夏季賞与を支払った。
- ## 7 精度管理委員会
- 1) 9月2日(土)令和5年度埼玉県医師会精度管理調査の試料発送作業実施予定。
- ## 8 一都八県会長会議
- 1) 7月15日(土)第2回一都八県会長会議が開催された。(別紙資料10)
- ## 9 日臨技関甲信支部 特になし
- ## 10 日臨技 特になし
- ## 11 第51回埼玉県医学検査学会
- 1) 7月20日(木)第10回実行委員会を開催した。(別紙資料11)
- ## Ⅲ. 承認事項
- ### 1 事務局
- 1) 会員動向(令和5年度分)
令和5年8月1日現在
会員数 3,599名[令和4年度会員数3,458名]
(新入会員 241名)
賛助会員 70社[令和4年度 71社]
承認された。
- ### 2 総務部 特になし
- ### 3 事業部 特になし
- ### 4 学術部
- 1) 研修会事業の変更について
11月24日(金)開催の病理・細胞検査研究班合同研修会が病理・細胞・生理検査研究班合同研修会へ変更
上記の件について、長岡勇吾学術部長から発言があり、審議の結果、承認された。
- ## 5 精度保証部 特になし
- ## 6 会計部 特になし

7 精度管理委員会

- 1) 埼玉県医師会精度管理調査、生理部門、監修医の役名について

監修をお願いする医師へ埼臨技から委嘱する職名として生理部門アドバイザーとしたい。

上記の件について、山口純也副会長から発言があり、審議の結果、承認された。

- 8 第51回埼玉県医学検査学会 特になし

IV. 議題

- 1 事務局 特になし
2 総務部 特になし

3 事業部

- 1) 令和5年度都道府県技師会リーダー育成研修会担当部署について

上記の件について、塚原晃事業部長から発言があり、審議の結果、今後、埼玉県で開催するリーダー育成研修会の主管は事業部とすることで、可決された。

- 4 学術部 特になし
5 精度保証部 特になし
6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

先日、久しぶりに趣味の野球の練習をしました。動けず・捕れず・もつれるのオンパレードで歳を感じましたが、練習後半から脈が速くなり、帰宅後血圧計で測定するも測定不可！さすがにまずいかなと、自分の病院へ平身低頭で連絡を入れ、救急外来のお世話になってしまいました。ベッドへ寝て点滴を打ちながら救急患者が搬送される緊張感漂う現場を見ていました。医師の指示、看護師やスタッフの忙しい動き、それでいて私などへも忘れずに声掛けをしてくれる。そんな姿を見ていると、ある意味自分の仕事に対する姿勢を改めて考えさせられました。臨床検査技師として、もっと貢献できるのではないかと。タスク・シフト/シェアが掲げられ、埼臨技も精力的に講習会を進めておりますが、身近なタスク・シフト/シェアは、自分の気持ちのありかたひとつで実現できるのではないかとベッドで横になりながら反省の意味を込め考えた1日でした。

(長岡 記)

